

令和6年度 学校評価表（最終評価）

能登町立柳田小学校

通し番号	評価項目	今年度の重点項目	担当者	評価規準・評価の観点	具体的な取組	実現状況の達成度判断基準	評価材料	自己評価		取組の成果と今後の改善策	学校評価	
								中間	最終		中間	最終
1	「創意工夫のある授業づくり」	①教師自身が児童と共に学ぶことの楽しさを味わえる授業を大切にし、より良い授業を追求する。	研究主任	「楽しい」「分かった」と実感できる授業を展開し、児童の自ら学びへと向かう力を高めている。	・授業導入の工夫 ・教材研究の充実 ・授業相互参観	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ①88.9 ②96.3 保護者アンケート ①92.6 ②81.5 職員アンケート ①91.7 ②100	87.4 A	91.8 A	・交流タイムの設定によって、授業が「楽しい」「分かった」と感じる児童が増えた。しかし、学年内容が難しくなり、学年によって肯定評価が下がっている。 ・相互授業参観では、指導のポイントに気づくことができた。今後は録画映像も活用していく。	B	A
2		②校内研修の充実を図ることで、教師一人一人が授業力を向上させる。	研究主任	組織的・計画的な研修により、職員の授業力の向上が図られている。	・校内授業研究 ・外部講師を招いた研修 ・校外研修会への参加推進	アンケートの『肯定的な評価』の割合と検証問題達成率 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ③88.9 職員アンケート ③83.3 【学期末検証問題達成率39.1%】	73.6 B	86.1 A	・校内での授業研究や指導主事を要請した授業づくりの研修を行った。高田サポーターによる定期的な指導も授業改善につながっている。 ・提案された取組を確実に実践し、児童の学力向上につなげたい。		
3	1学力の向上	①学習規律の徹底や、話し方・聞き方・つなぐワードの指導を共通実践し、学習基盤を確立する。	研究主任	授業ルールや話し合い方の指導により、児童が主体的に学びを深めようとする授業づくりが行われている。	・柳田小授業ルールの確認 ・話し方・聞き方・つなぐワードの指導 ・家庭学習の工夫 ・自学ノート ・漢字・算数検定	アンケートの『肯定的な評価』の割合と校内検定合格率 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ④90.1 保護者アンケート ④74.1 職員アンケート ④90.9 【漢字検定合格率59%】 【算数検定合格率56%】	80.4 B	85 A	・家庭学習に関する保護者による回答が10ポイント以上増加した。 ・授業ルールについては、職員全体で共通理解をはかり、一層の定着を目指す。 ・日本漢字能力検定の準会場として実施し、24名が受診した。	B	A
4		②常に学習ツールとしてタブレット端末を効果的に活用し、情報活用能力の向上を図る。	GIGA推進教師	「GIGA研修」等により、個別最適な学びや協働的な学びのために端末が効果的に活用されている。	・GIGA校内研修の充実 ・教材フォルダの充実 ・端末持ち帰り手引作成	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ⑤91.4 職員アンケート ⑤58.3	86 A	74.9 B	・教職員の意識が高くなり、ICTのより効果的な活用場面を求めるあまり、簡単な場面での利用が減っている。 ・タブレット端末による個別最適な学びや協働的な学びを教員が設定していくだけでなく、言う児童にも意識させながら利用していく。		
5	2豊かな心の育成	③読書指導、名文暗唱等を通して、自分の語彙を増やし、豊かな表現ができるようにする。	研究主任 図書担当	児童が読書、名文暗唱等に積極的に取り組み、豊かな表現を吸収しようとしている。	・朝読書の充実 ・家庭読書の実施 ・教養文化館との連携 ・毎月の名文暗唱	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ⑥70.4 ⑦86.4 ⑧79.0 職員アンケート ⑥88.9 ⑦100 ⑧77.8 【名文暗唱合格率90.1%】	75.5 B	83.8 B	・多読賞の表彰によって、児童の読書に対する意欲を喚起することができた。 ・教文との連携や国語科の並行読書など、読書の幅を広げていく必要がある。	A	A
6		①教育活動全般を通して必ず一人一人に活躍の場を設け、自己有用感を実感させる。	道徳推進教師 生徒指導主事	児童が自分の良いところに気づき、自他の存在を大切にしようとする意識を高めている。	・道徳教育の充実 ・特別活動の充実 ・個々の良さを引き出す指導	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ⑨92.6 ⑩86.4 ⑪82.7 ⑩90.1 保護者アンケート ④88.9 職員アンケート ⑨100 ⑩88.9	88.7 A	89.9 A	・「笑顔まつり」では全児童が主体的に参加できる場や各学年の活躍の場があり、一体感を持ちながら一人一人の自己有用感にもつながった。 ・児童会や柳っ子の木を改善し、児童が主体的に発信できるようにした。		
7	7	②地域の人や自然、伝統行事を学ぶ機会を設け、その良さや素晴らしさに触れて「感動」を味わうことで心を豊かにし、地域に誇りと愛着が持てるようにする。	教務主任	地域行事への参加や地域の各種団体との交流等を通して、児童は地域のよさを感じ取り、規範意識や郷土愛を深めている。	・地域行事への参加呼びかけ ・地域のよさを感じる体験活動の充実 ・地域への学校支援依頼 ・やなぎっ子の木の取組	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ⑩96.3 ⑪86.4 保護者アンケート ⑤85.2 ⑥66.7 職員アンケート ⑪100 ⑫100	78.5 B	89.1 A	・地域の協力を得て、米づくりの学習を終えることができた。3学期はサクラマスの飼育や川の生き物の学習が行われている。地域の里山里海の豊かさやその環境を守っている人々の思いをも学ばせていく。	A	A
8	3体力・生活習慣の向上	①家庭と連携した安全教育・健康教育を推進し、心身ともに健康な児童を育成する。	保健主事	学校保健目標のもと、睡眠や食生活等、健康な生活に関する意識を高め、身につけていく。	・年間を通じた健康教育と食育 ・学校保健委員会 ・メディアコントロール週間 ・非行被害防止講座	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ⑦84.0 ⑮84.0 ⑯82.7 保護者アンケート ⑦74.1 ⑮77.8 ⑯93.7 職員アンケート ⑯100	75.6 B	77.1 B	・歯磨きや目についての授業を定期的に行うことで、健康に対する意欲づけをすることができた。 ・メディアコントロールの取り組みを家庭と連携して継続する。メディアに関する授業を行い、メディアコントロールへの意識を高めていく。 ・歯科受診を促すお知らせを定期的に出し、受診率上昇を目指す。	B	B
9		②「スポーチャレいしかわ」「いしかわっ子駅伝」等に積極的に参加し、自身の目標に挑戦・努力し、やり遂げることで生まれる達成感を味わうことができるようになる。	体育担当	「スポーチャレいしかわ」の取組が計画的に行われている。 校内外の大会への参加を通して様々な記録に挑戦している。	・「スポーチャレいしかわ」への取組 ・体育的行事の充実 ・各種大会への積極的な参加推進	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ⑩85.2 保護者アンケート ⑩74.1 職員アンケート ⑯90.9	83.8 B	83.4 B	・運動場に簡易式サッカーゴールを設置し、サッカーをはじめとした運動に親しませることができた。 ・次年度もいしかわっ子駅伝や水泳記録会へ参加し、計画的に練習に励んでいく。		
10	4安心安全な学校	①注意深く児童を観察し、児童の変化に気づくことでいいじめ・不登校の未然防止に努める。	生徒指導主事 特別支援教育コーディネーター	児童の状況の的確な把握と、それに基づいた適切な指導が、職員の共通理解のもとで行われている。	・児童理解の会 ・外部機関との連携 ・校内研修の充実	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	児童アンケート ⑯93.8 ⑰86.4 ⑱81.5 保護者アンケート ⑯88.9 ⑰84.0 職員アンケート ⑯100	90.2 A	89.1 A	・授業や休み時間に積極的に児童と関わったり教員同士の情報交換を行ったりしながらよりよい指導に努めている。 ・不登校の未然防止では、個に応じたスマートルーティングの目標を立て、全職員で共有し、共通した対応を行っていく。	A	A
11		②環境整備と計画的な訓練を行い、危機管理マニュアルの定期的な確認と見直しをする。	教頭 保健主事	児童が生活する場の施設・設備について教育環境が整備されている。	・マニュアル作成と見直し ・安全点検 ・清掃活動 ・避難訓練の充実 ・事故対応研修	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	保護者アンケート ⑯97.5 ⑰97.5 職員アンケート ⑯100	98.3 A	97.5 A	・計画的に避難訓練や安全点検を行うことができた。 ・アクションカードを作成し、緊急事態への対応を迅速かつ的確に行えるよう努める。		
12	5家庭・地域との連携	①地域の声や、保護者の思いを大切に受けとめ、教育活動にいかしていく。	教頭	保護者・地域・学校が力を合わせて教育活動に取り組んでいる。	・除草作業 ・資源回収 ・PTA役員会等	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	保護者アンケート ⑯97.5 ⑰96.3 職員アンケート ⑯100	98.3 A	97.9 A	・PTA会員数の減少に合わせ、次年度より学級役員数を減らし、負担の少ない体制で活発に活動できるようにする。	B	A
13		②地域の人材・素材を活用・教材化し、地域の教育力を生かした教育課程を編成し実践する。	教務主任	地域の素材を元に、学習活動を行ったり、地域の人材を活用したりして、地域の教育力を積極的に活用している。	・地域の方を講師に招いた授業 ・地域教材の開発と活用 ・体験活動の充実	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	保護者アンケート ⑯96.3 職員アンケート ⑯75	65.4 C	85.7 A	・震災からの復旧が進み、地域の様々な施設を見学したり、出前教室として地域の方に来校してもらったりすることができた。		
14		③学校公開・授業参観を定期的に行い、保護者・地域に開かれた学校づくりを行う。	教頭	HP、各種おたより、学校公開等を通して、日々の教育活動を保護者や地域に伝えていく。	・地域・保護者を対象とした公開授業 ・各種お便りの定期的な発行とHPによる情報発信	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	保護者アンケート ⑯97.5 ⑯98.8 職員アンケート ⑯93.3	94.9 A	93.2 A	・年度当初に計画した学校公開と授業参観を予定通り行うことができた。保護者数の減少に合わせ、次年度はPTA学級役員数を減らす。		
15	6働き方改革と組織力の向上	①学校運営への参画意識を高揚し、前例踏襲することなく協働して課題を改善する体制づくりをする。	教務主任 教頭	主任を中心に、評価に基づいた課題改善策が示され、組織的に取組が行われている。	・客観的評価を生かした学校運営 ・主任会議の充実 ・課題改善の推進	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	職員アンケート ⑯92.3	92.9 A	92.3 A	・校務の部会内容を細分化したことで、集中した協議ができた。主任会議で情報を共有しながら、各部会を運営することができた。	A	B
16		②YSS（若プロ研修）を活性化し、若手もベテランも人間力と同時に学校力を高める。	教頭 教務主任	様々な行事や授業研究において、学び合い、教え合うことでそれぞれの良さを吸収している。	・学校の課題に即した研修の設定 ・職員同士で学び合う風土の醸成	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	職員アンケート ⑯100	85.7 A	100 A	・計画的に若プロ研修を進めることができた。業務を複数体制で進めることで、職員同士で学び合う姿も見られた。若手のニーズに応える研修も実施していきたい。		
17		③効率化や改善を意識して日々の業務に取り組む。	教頭 教務主任	働き方改革を意識して、実施している。	・定時退校日や定時退校時間の設定 ・校務分掌の複数体制化	アンケートの『肯定的な評価』の割合 A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	職員アンケート ⑯92.9 9~12月平均時間外勤務時間 28.8時間	85.7 A	92.9 A	・教職員は計画的・効率的に業務を行っていると思っているが、平均時間外勤務時間を削減することができていない。 ・より抜本的な業務削減や取組上の無駄がないか見直しが必要である。		

【学校関係者評価委員からのご意見】

1. 学力の向上…わかりやすい授業をしようと工夫していることは評価できるが、基礎的な力をつける取組が必要である。
2. 豊かな心の育成…児童の「してみたい」をサポートする笑顔まつりのような取組を今後も継続できると良い。町野小との合同学習も良い学びにつながったのではないか。
3. 体力・生活習慣の向上…運動や普段通りの学校生活ができる環境が整えられている。児童の心身の状態に目を配りながら、様々な大会等に挑戦させてほしい。
4. 安心安全な学校…定期的な訓練実施がされおり、安心安全な状態が良好に保たれている。
5. 家庭・地域との連携…学校を1日公開する取組が良い。地域の方と共に震災復興にかかる経験も行うと良い。地域と連携した学習が積極的に行われていた。
6. 働き方改革と組織力の向上…定時退校の取組や休日の行事の見直しなど、思い切った対応が必要である。